



分科会 11 在宅医療に取り組む薬局 ～患者がもう一つの仕事場～

10月8日(月・祝) 10:30～13:00 第1会場(アクトシティ浜松 B1F 中ホール)

W-11-05

在宅医療において薬剤師に期待される役割

むらた ゆうじ
村田 雄二

静岡県介護支援専門員協会

【目的】介護保険が始まって12年となる。今後、超高齢社会をいかに支えていくか。その流れの中で、在宅医療において薬剤師との連携もますます重要と考えている。現在の介護支援専門員(以下ケアマネ)の薬剤師に対する意識や期待する役割などを調査し、今後のケアマネと薬剤師の連携における課題や連携の在り方について明らかにしスムーズな連携をはかっていきたい。

【方法】静岡県内のケアマネに対して5年間に1度受講が義務づけられている平成24年度専門研修課程2等の受講生614名に対して、6月13日の研修時にアンケート調査をおこなった。配布数614件。回収数575件。回収率93.6%であった。性別は女性82%(474件)・男性18%(101件)、経験年数は0～3年未満(9%)、3～6年未満(36%)、6～9年未満(20%)、9年以上(35%)であった。勤務先では居宅介護支援事業所(57%)、地域包括支援センター(12%)、グループホーム(4%)、小規模多機能型居宅介護(1%)、介護老人福祉施設・介護老人保健施設(15%)、その他(11%)であった。今回は、在宅で活躍する居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・小規模多機能型居宅介護に勤務する402件に対するアンケート結果を集計した。

【結果】アンケートは7項目の設問から構成されている。以下、結果を報告したい。1) 通常の活動地域の薬局で訪問指導を行っている薬局を1ヶ所以上知っていますか? a) 1ヶ所以上知っている47%(190件)・b) 薬を届ける等訪問してくれる薬局を1ヶ所以上知っているが指導しているかわからない29%(115件)・c) 薬を届ける等訪問してくれる薬局を1ヶ所以上知っているが指導していない5%(22件)・d) 訪問してくれる薬局をしらない18%(73件)であった。2) 薬局の訪問指導に立ち会ったことがありますか? a) ある14%(57件) b) ない85%(341件)であった。3) サービス担当者会議に薬剤師さんに参加してもらったことはありますか? a) ある8%(34件) b) ない91%(366件)であった。4) 薬剤師さんに相談したことはありますか? a) ある55%(221件) b) ない45%(180件) 相談内容はア) 薬の管理ができないイ) 飲み忘れがちだがどうしたらよいか ウ) 飲みづらそうだがどうしたらよいか エ) たくさんの薬を飲んで大丈夫かの順に相談が多かった。その他 自由記載では薬を1包化してほしいなどの記載があった。5) 薬局・薬剤師との連携の必要性を感じますか? a) 大変そう思う22%(89件) b) 必要と思う67%(271件) c) あまり必要とおもわない8%(34件) d) 必要と思わない1%(3件)であった。6) 薬局・薬剤師と連携とれていますか? a) よく連携とれている4%(17件) b) 連携とれている18%(74件) c) あまり連携とれていない33%(134件) d) 連携とれていない43%(171件)であった。7) その他: 連携等に期待することなど自由記載してもらった。内容は5つに分類できた。a) 薬剤管理等への関与 b) 連携・連絡の充実 c) 相談機能の充実 d) 薬の知識の啓発 e) その他: 入院前からケアマネが担当していた割合は、実に6割であり、その入院原因疾患は肺炎・心疾患・脳梗塞等と聞く。再入院・再発予防等にどのようにかかわってもらえるか等の意見もきかれた。

【考察】今回明らかになった課題の一つに、89%の方が連携の必要性を感じるが、実際に連携が取れていると感じている方は22%と少なく、改めて連携がまだとれていない実態が浮き彫りとなった。連携が取れていないと感じているケアマネも、26%は相談したことがあると答えており、現状では単発的な相談のレベルにとどまっているように感じる。今後、目指す方向としては、まずは気軽に相談ができる体制がとれる。さらには単発的な相談にとどまらず、薬剤師の訪問指導に同行させってもらったり担当者会議への参加を呼びかけるなど連携を図る必要があると考える。次に、ケアマネの中には、訪問してくれる薬局を全く知らない(18%)、訪問してくれる薬局を知っているが指導しているかわからない(29%)などまだまだ情報不足や理解不足の方がいる。自由記載でも、何をどう連携してよいかかわからないなどの意見もあり実際の薬剤師の活動(何をしてくれるのか)の理解ができていないところもある。お互いの仕事の内容を理解する必要があるのではないかと感じた。さらに、薬に関して、薬の管理・再発予防の観点からも、薬剤師への期待の大きさがあらためて確認された。今後ますます、お互いに連携がとれ、お年寄りの在宅療養が継続できることを期待している。最後に、今回発表の場をあたえていただき誠にありがとうございました。